

保護者各位

鳥取西小学校 校長

高島 昌之

「いじめ」は、集団の病気である？

いじめは、いじめっ子を排除したり、いじめられっ子を守っても駄目である。**いじめが起きやすい集団だといじめられっ子が選ばれるのである。**つまり、集団にメスを入れなければ、「いじめ」騒ぎはなくなる。

《 集団の病気をどう診断するのか？ 》

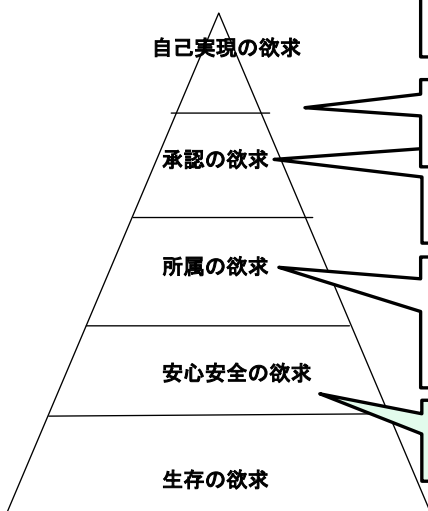
学校では、年に2回、『**Q-Uテスト**』という**心理バッテリー**を使って、次の3つを診断しています。

- ① 個人の認知(受け止め方・考え方はどうなっているか?)
- ② 集団の状態(ルールと信頼関係ができているか?)
- ③ 個人と集団の関わり方(集団内でのポジションは?)です。

集団分析で調べるのは、『**ルール**』と『**信頼関係(リレーション)**』です。

明確な『ルール』は、安心安全な空間を生み出す。安心安全だと“ありのままの姿”を出せる。すると、「自分との違い」を「まっいいか」と認めあう『リレーション』が生まれる。居場所ができると、『ルール』を守ろうと動き出す。この好循環が、「自己実現の欲求」が出てくる環境になっていく。

マズローの5段階欲求説



哲学者アブラハム・マズローが唱えた、「自己実現(夢の実現に向かおうとする意欲や勇氣)」の欲求が出るには、下層の欲求を埋めていかなければいけないというもの。

認められていると実感すると、夢の実現や社会貢献に突き進む勇氣と意欲「**自己実現の欲求**」が出る。
居場所ができることで、行動や結果を認めてほしいと心が**承認の欲求**が出てきて、アヤシク?が知まる。失敗して落ち込んで下に落ちて**「ドンマイ」という集団**があり、所属の欲求が埋まり上へあがる。

ありのままの姿を出しても大丈夫!という世論と雰囲気が出てくると、本音を語りあう**信頼関係(リレーション)**が築かれる。「存在を認めて行為は注意する」というルールが定着しているのが前提になる。

安心・安全が保障されると、ありのままを出せる場所を探しだす「**所属の欲求**」が出る。

いじめが起きやすい学級は、「責任の所在」があいまいである。それは、ルールがあいまいなことを意味している。**学校や学級は「安心・安全の欲求」が満たされるのが絶対条件**である。

教育を受ける権利をじゃまする権利は誰にもありません。この権利を大きくじゃまする場合は、校長室で話しあいを行います。「修復的正義」をベースにしたものです。他人を変えることはできません。こどもの存在をまるごと受け止めて、手段についての話しあいを何回でもくりかえします。